

目 次

序

第1部 通 史

第1章 新たな総合大学への歩み	3
第1節 大学創設からキャンパス統合へ	3
第2節 初期の教育研究体制の整備	6
第1項 学部の整備と教育研究条件の充実	6
第2項 文理学部改組	7
第3節 研究教育体制の拡充	9
第1項 学 園 紛 争	9
第2項 学 内 改 革	11
第3項 1970年代における研究教育体制の拡充と総合化の進展	12
第4項 看護学部の設置	14
第4節 新制大学院の発足	15
第1項 大学院医学研究科	15
第2項 1963年中教審答申と薬学、工学、園芸学研究科（修士課程）	17
第3項 理学研究科（修士課程）	19
第5節 大学院博士課程設置の試み	20
第1項 薬学系博士課程の設置	20
第2項 農学系連合大学院（博士課程）の試み	22
第3項 工学系連合大学院（博士課程）の試み	24
第4項 千葉大学総合大学院（博士課程）の試み	26
第6節 教育学研究科（修士課程）設置への模索	28
第2章 大学院の拡充と人文・社会系学部の充実	33
第1節 文学部・法経学部の創設	33

第2節	文系大学院の設置	44
第1項	文学研究科・社会科学研究科（修士課程）の設置	44
第2項	教育学研究科（修士課程）の設置	47
第3節	理系大学院の充実	50
第1項	薬学研究科総合薬品科学専攻（博士課程）の設置	50
第2項	看護学研究科（修士課程）の設置	50
第3項	工学研究科・園芸学研究科（修士課程）の拡充	51
第4項	自然科学研究科（博士後期課程）創設の準備体制	51
第4節	自然科学研究科（博士後期課程）の創設	52
第5節	センターの新設・拡充・改組	56
第1項	有害廃棄物処理施設	56
第2項	真核微生物研究センター	57
第3項	総合情報処理センター	58
第4項	学部附属センター	58
第6節	学内の動き	61
第3章	教養部廃止と教育改革	65
第1節	大学設置基準の大綱化と教育改革	65
第2節	組織改革の試み	67
第1項	大学改革への胎動	67
第2項	組織改革（全学への展開期） 拡大第1小委員会を中心に	70
第3項	学部改組構想等の検討	71
第4項	千葉大学改革の視点と方策の検討	74
第5項	自己点検・評価の歩み	77
第3節	教育改革の歩み	80
第1項	一般教育等検討専門部会	81
第2項	学部教養部連絡協議会（兼：千葉大学教務委員会設置準備会）	87
第3項	千葉大学教務委員会および普遍教育等専門部会	89
第4項	新カリキュラム実施計画の策定と外国語教育改革のための計画	93
第5項	新カリキュラム実施に向けて	94
第4節	看護学研究科（博士課程）の創設	95
第5節	平成6年度概算要求に向けて	96

第1項	教養部廃止後の普遍教育実施体制	96
第2項	教育内容・方法の改革	98
第3項	自然科学研究科情報システム科学専攻の設置	100
第6節	学内の動き	101
第1項	研究上の国際交流の進捗	101
第2項	情報処理環境の整備	102
第3項	留学生センターの設置と留学生受け入れの進展	106
第4章	21世紀の新たな大学をめざして	109
第1節	普遍教育の始動	109
第1項	改革の理念と方向	109
第2項	教育制度	111
第3項	改革後の履修科目構成	113
第4項	外国語センターの設置	114
第5項	関連する事務組織の変更	115
第2節	普遍教育実施上の問題点 自己点検・自己評価と外部評価	116
第1項	1994年度の『点検・評価報告書』	116
第2項	1997年3月の『千葉大学普遍教育等外部評価報告書』	119
第3項	1997年12月の普遍教育シンポジウムと普遍教育への学長提案	123
第3節	学長特別補佐設置から副学長制の導入へ	125
第1項	学長特別補佐	125
第2項	副学長制	126
第4節	社会文化科学研究科（博士課程）の創設	129
第5節	大学院の充実とセンターの新增設・拡充	140
第1項	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）の設置及び 同研究科への参加	140
第2項	自然科学研究科の区分制博士課程への改組とその後の拡充	141
第3項	薬学研究科医療薬学専攻の設置	142
第4項	医学研究科高次機能系専攻の設置	143
第5項	文学研究科の改組	144
第6項	共同研究推進センターの設置	144
第7項	環境リモートセンシング研究センターの設置	146

第 8 項	教育学部附属教育実践総合センターの新設	147
第 9 項	真菌医学研究センターの設置	148
第 6 節	学内の動き	150
第 1 項	サマースクールの開催	150
第 2 項	先進科学プログラムの発足と先進科学センターの設置	151
第 3 項	教員の任期制問題	152
第 4 項	科学研究費補助金・奨学寄附金等	153
第 5 項	自己点検・評価から第三者点検へ	160
第 6 項	大学開放	162
第 7 項	身体障害者の受け入れ	163
第 5 章	千葉大生の生活と意識	165
はじめに		165
第 1 節	数でみる千葉大生	166
第 1 項	学部学生	166
第 2 項	大学院生	170
第 3 項	外国人留学生	171
第 2 節	1980～1990年代の学生生活	173
第 1 項	千葉大生の出身家庭	173
第 2 項	収入と支出	175
第 3 項	住居	179
第 4 項	持ちモノ	183
第 5 項	学生と読書	185
第 6 項	レクリエーション	188
第 7 項	課外活動	189
第 3 節	1980～1990年代の学生の意識	191
第 1 項	千葉大学への入学	191
第 2 項	千葉大生のアイデンティティ	194
第 3 項	学生間の人間関係	195
第 4 項	政治意識	198
第 5 項	社会運動への関心と参加意欲	200
第 6 項	大学祭パンフレットに現われた学生の意識	203
おわりに		205

第2部 部局史

第1章 文学部	213
第1節 文学部の発足と発展	213
第2節 教養部の廃止と文学部の改組	216
第1項 文学部改組の道程とその方向性	216
第3節 改組後の文学部の展開	220
第1項 1998年度における文学研究科の改組	220
第2項 文学部・文学研究科における自己点検・評価、外部評価について	225
第3項 その他教育改革、学部運営上の改革等について	227
第4節 学科・講座の歩み	229
第1項 行動科学科	229
第2項 史学科	238
第3項 文学科	243
第4項 日本文化学科	251
第5項 国際言語文化学科	255
第2章 教育学部	259
第1節 通史	260
第1項 教育学部の沿革	260
第2項 教員組織	264
第3項 教育・研究体制	265
第4項 管理・運営	268
第5項 教育学部生の生活と意識の特色	273
第2節 各教室	277
第1項 教育心理学教室	277
第2項 教育学教室	278
第3項 国語科教室	279
第4項 社会科教室	280

第5項	数 学 教 室	280
第6項	理 科 教 室	281
第7項	英 語 科 教 室	282
第8項	音 楽 科 教 室	283
第9項	美 術 科 教 室	284
第10項	保 健 体 育 科 教 室	285
第11項	ス ポ ー ツ 科 学 教 室	286
第12項	技 術 科 教 室	287
第13項	家 庭 科 教 室	287
第14項	特 殊 教 育 教 室	288
第15項	幼 児 教 育 教 室	289
第16項	養 護 教 諭 教 室	290
第17項	外 国 人 留 学 生 教 育	291
第3節	附 属 施 設 ・ 附 属 学 校	292
第1項	附 属 教 育 実 践 総 合 セ ン タ ー	292
第2項	附 属 小 学 校	294
第3項	中 学 校	297
第4項	附 属 養 護 学 校	300
第5項	附 属 幼 稚 園	304
第3章	法 経 学 部	309
第1節	は じ め に	309
第2節	法 経 学 部 の 前 史 : 千 葉 大 学 に お け る 社 会 科 学 系 教 育 研 究 組 織 の 沿 革	310
第1項	新 制 大 学 と 一 般 教 育	310
第2項	学 芸 学 部	311
第3項	文 理 学 部	312
第4項	人 文 学 部 の 設 置	313
第5項	人 文 学 部 法 経 学 科 の 拡 充	314
第6項	人 文 学 部 の 改 組	314
第3節	法 経 学 部 (1 9 8 1 年 度 ~ 1 9 9 7 年 度)	318
第1項	構 成	318

第2項	教育研究組織の拡充	318
第3項	教育活動	320
第4項	学生生活	325
第5項	研究活動	329
第6項	国際交流	334
第7項	社会に開かれた大学	337
第4節	大学院社会科学研究科（修士課程）	339
第1項	設置の理念	339
第2項	教育研究上の組織	340
第3項	学生の受け入れ	340
第4項	教育課程等	340
第5項	修了者数	341
第5節	将来計画	342
第6節	法経学部関係の在籍者	343
第4章	理学部	351
第1節	理学部の発足と発展	351
第1項	発足、沿革、組織構成	351
第2項	理学部改組と理学部教職員定員の変遷	353
第3項	入学状況ならびに入学試験の変遷	355
第4項	理学部の教育のあゆみ	356
第5項	理学部の研究のあゆみ	357
第6項	施設・建物	359
第7項	情報環境整備	360
第8項	学生生活、卒業生、後援会	360
第9項	国際交流、留学生	363
第10項	公開講座、社会との連携、民間との共同研究、その他	365
第11項	財政	367
第2節	教育・研究活動	368
第1項	数学・情報数理学科	368
第2項	物理学科	372
第3項	化学科	377

第4項	生物学科	382
第5項	地球科学科	387
第6項	理学部附属海洋生態系研究センター	393
第7項	理学部極低温室	396
第5章 医学部および附属病院		399
第1節	医学部の沿革	399
第1項	教育改革の視点	401
第2項	研究、診療の進展	404
第3項	管理運営上の諸問題	406
第4項	亥鼻地区の施設環境整備	408
第2節	医学部医学科	409
第1項	解剖学講座	409
第2項	生理学講座	413
第3項	生化学講座	415
第4項	微生物学講座	417
第5項	薬理学講座	419
第6項	病理学講座	421
第7項	衛生学講座	423
第8項	公衆衛生学講座	424
第9項	寄生虫学講座	425
第10項	法医学講座	427
第11項	内科学第一講座	428
第12項	内科学第二講座	429
第13項	内科学第三講座	430
第14項	放射線医学講座	432
第15項	外科学第一講座	433
第16項	外科学第二講座	434
第17項	整形外科学講座	435
第18項	産科婦人科学講座	436
第19項	眼科学講座	437
第20項	皮膚科学講座	438

第21項	泌尿器科学講座	439
第22項	耳鼻咽喉科学講座	440
第23項	小児科学講座	441
第24項	精神医学講座	442
第25項	歯科口腔外科学講座	443
第26項	麻醉学講座	444
第27項	脳神経外科学講座	445
第28項	神経内科学講座	447
第29項	小児外科学講座	448
第30項	臨床検査医学講座	449
第31項	救急医学講座	450
第3節	大学院医学研究科	451
第1項	生理系専攻	452
第2項	病理系専攻	454
第3項	社会医学系専攻	455
第4項	内科系専攻	456
第5項	外科系専攻	458
第4節	附属病院	459
第1項	形成外科	460
第2項	中央診療施設	461
第3項	薬剤部	478
第4項	看護部	479
第5項	事務部	481
第5節	附属肺癌研究施設	482
第1項	第一臨床研究部門	482
第2項	第二臨床研究部門	483
第3項	病理研究部門	484
第6節	附属高次機能制御研究センター	485
第1項	遺伝子情報分野	487
第2項	免疫機能分野	488
第3項	高次神経分野	488

第4項	発達生理分野	489
第5項	生体情報分野	491
第7節	附 属 学 校	492
第1項	附属看護学校	492
第2項	附属助産婦学校	493
第3項	附属診療放射線技師学校	494
第8節	附属動物実験施設	495
第9節	医学部事務部	496
第10節	そ の 他（臨海実験室、気候医学研究室）	498
第6章	薬 学 部	501
第1節	薬学部の歩み（1979年から1997年まで）	501
第2節	国 際 交 流	507
第3節	学 会 活 動	508
第4節	入試の変遷	509
第5節	研 究 活 動	511
第1項	総合薬品科学科	513
第2項	附属薬用資源教育研究センター	543
第3項	薬学研究科医療薬学専攻	548
第7章	看 護 学 部	551
第1節	看護学部的发展	551
第1項	創設から看護学研究科博士後期課程設置以前	551
第2項	看護学研究科博士後期課程設置後	562
第2節	教 育 ・ 研 究 活 動	567
第1項	看護学科の教育課程	567
第2項	大学院における教育活動	575
第3項	附属看護実践研究指導センターの教育活動	577
第4項	看護学部における研究活動	580
第5項	卒業生・修了生の社会的活動	591
第8章	工 学 部	593
第1節	工学部通史	593

第1項	工学部の変遷	593
第2項	工学部建物の新築と号棟呼称	597
第2節	各学科の教育研究活動	597
第1項	工業意匠学科	597
第2項	建築学科	602
第3項	機械工学科	606
第4項	情報工学科	611
第5項	電気電子工学科	615
第6項	応用化学科	620
第7項	機能材料工学科	624
第8項	画像工学科	627
第9項	共通講座	632
第9章	園芸学部	639
第1節	園芸学部の沿革	639
第1項	園芸学部発足以前	640
第2項	園芸学部発足(1949年)以後	641
第2節	園芸学部の発展	645
第1項	園芸学科(1949年~1990年)、生物生産科学科(1991年~)の変遷と 教育・研究活動	646
第2項	農芸化学科(1949年~1990年)、生物生産科学科(生物資源化学講座、 生物生産基礎科学講座=土壌学、植物栄養学教育研究分野、1991年~)の 再編と教育・研究活動	647
第3項	造園学科(1949年~1990年)、緑地・環境学科(1991年~)の再編と 教育・研究活動	648
第4項	環境緑地学科(1974年~1990年)の発足と教育・研究活動	650
第5項	総合農学科(1953年~1966年)、農業生産管理学科(1967年~1977年)、 園芸経済学科(旧・1978年~1990年、新・1991年~)の再編と教育・研 究活動	651
第6項	園芸別科の発足と変遷	653
第7項	附属農場の整備	653
第8項	国際化への対応	654

第9項	園芸学部と社会との連携	655
第3節	組織と運営	656
第1項	学科構成	656
第2項	土地・建物および予算	657
第3項	運営	657
第4項	事務部	659
第4節	教育・研究活動	660
第1項	生物生産科学科	660
第2項	緑地・環境学科	667
第3項	園芸経済学科	672
第4項	園芸別科	675
第5節	附属農場	678
第1項	附属農場の沿革	678
第2項	附属農場の拡充移転の経緯	679
第3項	柏農場の整備	680
第4項	農場組織の改組	681
第5項	農場研究室	682
第6項	附属農場における教育	682
第6節	関係諸団体とその行事	683
第1項	戸定会	683
第2項	千葉大学園芸学部後援会	684
第3項	淡水会	684
第4項	教職員組合	684
第5項	生協売店	685
第6項	戸定祭	685
第7項	新穀感謝祭	686
第10章	教養部	689
第1節	教養部の歴史	689
第1項	教養部の発足	689
第2項	教養部の歩み	690
第2節	教養部の教育活動 = 千葉大学における一般教育	694

第1項	教育体制整備の経過	694
第2項	教育活動の概要	695
第3項	諸科目の開設状況および受講生数とその問題点	696
第4項	授業科目の多様化の取組みとその問題点	698
第5項	カリキュラム改革への環境整備	699
第6項	教育活動の自己点検	700
第7項	一般教育改革	700
第8項	その他	703
第11章 大学院独立研究科		705
第1節	社会文化科学研究科	705
第1項	設置までの経緯	705
第2項	独立の総合大学院	706
第3項	始 動	707
第4項	展 開	708
第5項	新 施 設	710
第6項	今後の課題	710
第2節	自然科学研究科	712
第1項	成立の経緯	712
第2項	設置の趣旨・目的	714
第3項	改組と改組計画	715
第4項	専攻と教育・研究	723
第5項	教員数、入学定員、在学生数、修了者数等	731
第6項	運 営 組 織	743
第7項	お わ り に	745
第12章 セ ン タ ー		747
第1節	分析センター	747
第1項	分析センターの沿革	747
第2項	分析センターの組織	750
第3項	分析センター利用実績の推移	750
第4項	分析センター研究実績の推移	755
第5項	分析センターにおける教育活動	755

第6項	分析センターの広報活動	756
第7項	管理・運営および機器の整備状況	757
第8項	分析センターの将来へ向けて	758
第2節	総合情報処理センター	759
第1項	前 史	759
第2項	総合情報処理センターへの移行	761
第3項	キャンパス情報化時代の到来	763
第4項	再 編	766
第3節	留学生センター	769
第1項	留学生センターの沿革	769
第2項	留学生センターの教育研究活動	771
第4節	アイソトープ総合センター	778
第1項	センター設立の経緯とその後の経過	778
第2項	施設・設備の概要	779
第3項	利 用 開 始	781
第4項	教育および実習	783
第5項	歴史から将来への展望	784
第5節	外国語センター	785
第1項	組織について	786
第2項	外部評価について	787
第3項	外国語教育の実施状況	787
第6節	共同研究推進センター	793
第1項	共同研究推進センター発足までの経緯 黎明期	793
第2項	その後の千葉大学共同研究推進センターの歩み	794
第3項	各種事業について	795
第4項	共同研究の実施状況	799
第5項	今後の対応	800
第7節	環境リモートセンシング研究センター	801
第1項	前 史	801
第2項	環境リモートセンシング研究センターの発足	804
第3項	組織・運営	805

第4項	研究活動	807
第8節	真菌医学研究センター	814
第1項	沿革	814
第2項	真核微生物研究センターならびに真菌医学研究センターの機構と 運営	816
第3項	研究所、研究センターの主要な行事と人事	817
第4項	研究・教育活動	821
第9節	保健管理センター	826
第1項	保健管理センター設置までの歴史	826
第2項	保健管理センターの発展	828
第3項	保健管理センターの業務の展開	830
第4項	保健管理センターの業績	833
第5項	今後の展望	835
第10節	先進科学教育センター	836
第1項	「先進科学特別課程」(案)から「先進科学プログラム構想」へ	836
第2項	先進科学センターの設置	839
第3項	今後の展望	841
第11節	有害廃棄物処理施設	842
第1項	有害廃棄物処理施設の沿革	842
第2項	処理施設の運用体制	843
第3項	処理施設の概要	845
第4項	処理施設の運転実績	846
第5項	処理費用	846
第6項	処理施設の活動	846
第7項	今後の課題	848
第13章	附属図書館	849
第1節	そのあゆみと現在の状況	849
第1項	組織と運営	849
第2項	施設の整備	853
第3項	資料の充実	855
第4項	電算化と学術情報サービス	857

第5項	利用者サービス	860
第6項	広報活動	863
第2節	将来の構想と課題	864
第1項	事務組織の再編成と施設整備	864
第2項	電子図書館化の推進	865
第3項	資料の効率的収集と共同利用の促進	866
第14章	事務局	869
第1節	事務局の歩み	869
第1項	事務局の組織と機構の変遷	869
第2項	諸規程の変遷	874
第3項	諸行事等	877
第4項	自己点検・評価の実施	881
第5項	事務情報化の推進	883
第2節	国際交流の進展	885
第1項	大学間交流協定等	885
第2項	外国人研究者等の受け入れ	888
第3項	教職員の海外派遣	889
第4項	各種国際交流事業	889
第5項	千葉大学国際交流関係事業	890
第6項	外国人留学生の受け入れ	891
第3節	定員と人事	892
第1項	職員定員の変遷	892
第2項	他機関との人事交流	894
第4節	財政	895
第1項	予算および決算の推移	896
第2項	財産状況の推移	899
第5節	土地・建物の変遷	903
第1項	土地・建物の変遷	903
第2項	大学における施設・設備の拡充整備状況	905
第6節	入学試験の変遷	913
第1項	共通第1次学力試験	913

第2項	大学入試センター試験	913
第3項	個別学力検査等	914
第4項	その他の入学者選抜方法	916
第7節	生涯学習事業	919
第1項	公開講座の進展	919
第2項	けやき倶楽部の発足	920
第8節	課外活動	920
第1項	課外活動施設	920
第2項	学生のサークル活動	921
第3項	主な諸行事	921
第9節	厚生施設	922
第1項	学 寮	922
第2項	国際交流会館	922
第3項	学生食堂	923
第4項	大学会館	923
第5項	けやき会館	923
第10節	奨学と援護	924
第1項	学費の免除	924
第2項	奨学制度	925
第3項	学生保険	926

第3部	年 表	929
-----	-----	-----

役職者一覧	955
-------	-----

編集後記	975
------	-----